

## コロナ禍での現況報告

事務局員

特別支援学校では、臨時休校以来、新型コロナウイルス感染症対策に振り回されている日々が10ヶ月も続いています。教育委員会は、高校と特別支援学校の両方を一括りにした通知文を出し続けているため、特に特別支援学校は高校の対策に振り回されました。世間に高校の対策案が報道されると、あたかもそれが特別支援学校でも同様のよう保護者には思われ、相当の混乱を招いたのではないのでしょうか。最新の通知でも、今年度の卒業式の参加可能とする保護者数を、高校・中等教育学校（中高連携校）と特別支援学校、という枠で分けていますが、高等部単独校にとっては、現実的ではありません。特に、知的障害学校高等部では、明らかに高校並にするのが望ましい対策と考えますが、小中学部や肢体不自由校と横並びにせざるを得ない雰囲気があります。というより今回のような未曾有の危機的状況で、各学校が独自の対応をすることがいかに難しいか、逆に、できるだけ横並びにすることを優先する、という学校文化が露出しました。残念ながら、特別支援学校で、当初から問題とされていたスクールバスの3密対策は、結局10ヶ月も放置されたままです。最近になって、座席のヘッドカバーの部分に仕切りをつけるのはどうか？などというレベルの対策案が出されました。

私は、今回のコロナ禍で、わかっていただけモヤモヤしていた学校の慣例や思考回路が、あちこちで明らかになったことは、逆によかったと思っています。今こそ、自分の頭で考え、ベストな解答は出せなくても、ベターな解答を積み重ねていくことが大切であると思います。そして、独善にならないよう、しっかり議論することが大切です。疲れても、考えることをやめたら、それで終わりですね。

2020.12.28